

海外語学研修の効果測定

野 中 辰 也

Assessment of a Homestay Program

Tatsuya Nonaka

1. はじめに

英語運用能力養成のために学習者に十分な「量 (exposure)」のインプットを与える必要があることを、私たちは経験的に知っている。しかし、どれくらいの量が必要最低限のレベルかということについては、現在までのところ、はっきりとはわかっていない。巷間では、英語運用能力の伸長に海外滞在経験が有効であるということが言われることもあるようだが、実際に有効とされる期間については、3ヶ月という人もいれば、6ヶ月や1年間という人もいる。さらに、1年以上の海外滞在経験を経ても、期待していたほどの英語運用能力の伸長が見られなかったという人もいる。英語運用能力養成に必要とされる海外滞在経験の量について実証的根拠を示すためには、さまざまなタイプの海外滞在経験について、その効果測定のデータを積み上げていく必要がある。

野中ほか (2001, 2002) では、短大の「短期留学プログラム」の効果測定を行なった。野中ほか (2001) では、英語運用能力標準テストITP Pre-TOEFLを用いた測定により、3ヶ月の留学経験により学習者の総合的な英語運用能力にゆるやかな伸長が見て取れ、特にリスニングについての伸長が顕著であることがわかった。さらに、野中ほか (2002) では、6ヶ月の留学経験により、学習者の総合的な英語運用能力の伸長に明らかな効果があることがわかった。特にリスニング能力については全員が15%以上の伸びを示し、その効果が明らかになった。こうした結果は、3ヶ月以上の海外滞在経験が、学習者の英語運用能力の伸長にある程度の効果があることの証左として考えられる。

本研究では、短大で実施している20日間の海外語学研修 (以下「研修」) を対象として、その英語運用能力伸長についての効果測定を行ない、過去の研究成果に実証的根拠を追加することとする。

2. 研修概要

2.1. 研修の位置付け

本研修は、短大の国際文化学科の学生を対象としており、約3週間のホームステイを通しての英語運用能力伸長と異文化理解を目的としている。研修は「海外語学研修」という授業科目で、それぞれ6ヶ月間の事前・事後指導を含んでいる。

2.2. 研修先・期間・内容

研修先はアメリカ・ワシントン州のシアトル郊外で、研修期間は短大1年次末の20日間である。研修参加者は、20日間のうち、平日13日間は現地スタッフのもとで英会話授業（午前中）や見学（午後・終日）を行ない、それ以外の時間帯は参加者1人が1家庭に滞在し（いわゆる「ホームステイ」）、様々な活動を行なう。²⁾特に、ホームステイでは、英語を聞く話すといった環境に、より多く接することになる。

2.3. 研修参加者

今回分析に使用したのは、2000年度から2003年度の研修に参加した短大1年生51名のデータである。各年度の研修参加者数は下記のとおりである：³⁾

2000年度 15名

2001年度 10名

2002年度 14名

2003年度 12名

研修参加者は短大で英語科目を中心に履修しているが、研修参加前の英語運用能力はhigher elementaryからlower intermediateのレベルであると考えられる。研修参加にあたっては、その要件として実用英語技能検定試験の準2級取得を課しており、研修参加以前に全体の9割以上の学生が準2級資格を取得済みであり、同検定の2級資格を取得済みの学生も若干名いた。さらに、研修前の英語運用能力をPre-TOEFLで測定したところ、全体で平均点375.1、最高点430、最低点323、標準偏差25.1という結果を得た。

3. 研修の効果測定

3.1. 効果測定の方法

研修参加者の英語運用能力変化を客観的に測定するため、研修開始2～4週間前と研修終了1ヶ月後までにそれぞれ英語運用能力テスト（Pre-TOEFL）を実施した。テスト結果をもとに、Pre-TOEFLの総合スコアおよび各セクション（「リスニング（Section 1）」「文法（Section 2）」「リーディング（Section 3）」）のスコアの変化をt検定により比較検討した。なお、Pre-TOEFLスコアのraw dataについては、Appendixにまとめた。

3.2. 結果と考察

表1は、研修参加者全体のPre-TOEFLスコアの変化をまとめたものである。

表1：Pre-TOEFLスコア変化（N=51）

	リスニング		文 法		リーディング		総合スコア	
	研修前	研修後	研修前	研修後	研修前	研修後	研修前	研修後
平均点	39.3	40.2	38.1	36.6	35.2	35.8	375.1	375.4
最高点	45	49	50	49	43	46	430	463
最低点	32	33	32	29	29	30	323	317
標準偏差	2.7	2.9	4.1	4.2	3.3	3.1	25.1	28.4

表内のデータを一見したところでは、全体としては研修前後でほとんど差が見られないということがわかる。この点について、研修前後の平均点の差にt検定をかけたところ、「リスニング」「リーディング」「総合スコア」のいずれにおいても、研修前後での平均点変化に有意差なしという結果を得た。つまり、本研修に限って言えば、この3点については、目に見えるほどの大きな変化は期待できないということである。研修地でのホームステイを通してのインプットの量を考えると、20日間という短期間とはいえ、特にリスニングについては多少伸びるのではないかと期待していたが、やはり20日間ではなかなか難しいようである。また、野中ほか(2001)での3ヶ月留学の効果測定結果を考えると、この結果は妥当といえるかもしれない。

一方、「文法」セクションについて研修前後のスコアの平均点をt検定にかけたところ、有意差ありという結果を得た(両側検定: $t(50) = 2.447$, $p < .05$)。ただし、ここではスコアは上昇したのではなく、下降している。つまり、研修を経て「文法」力が低下したということが、統計的に支持されたことを示している。これは、野中ほか(2001、2002)での3ヶ月・6ヶ月留学の効果測定でも見られなかった現象だが、研修参加者の各セクションの成績伸び率を個別に見ると(Appendix参照)6割程度の参加者がスコアを落としており、率にして10%以上の得点減少をみた参加者も全体の3割を越えている。該当者個々のプロファイルを考え合わせても、成績下降の理由に結びつく特徴的要素は見出せなかった。そのため、この点については、結果を提示するに留める。

表2は、研修参加者51名のうち、研修前のPre-TOEFL総合スコアの上位15名と、同下位15名のデータを表1にならってまとめたものである。

表2：Pre-TOEFLスコア変化成績別

		リスニング		文 法		リーディング		総合スコア	
		研修前	研修後	研修前	研修後	研修前	研修後	研修前	研修後
研修前スコア 上位群 (N=15)	平均点	41.2	41.7	41.2	39.7	38.6	37.9	403.3	397.7
	最高点	45	49	50	49	43	46	430	463
	最低点	37	37	33	33	34	32	383	353
	標準偏差	2.0	2.9	3.9	4.6	2.6	3.7	15.9	32.7
研修前スコア 下位群 (N=15)	平均点	37.4	39.5	34.6	34.5	31.6	34.2	345.3	360.7
	最高点	42	44	41	38	35	36	367	383
	最低点	32	33	32	29	29	32	323	317
	標準偏差	3.1	2.9	2.4	2.6	1.7	1.0	12.7	17.3

このデータをもとに、研修前スコア上位群と同下位群の各項目についてスコアをt検定にかけた。その結果、研修前スコア上位群ではいずれの項目も有意差が確認されなかったのに対し、研修前スコア下位群では「リーディング」(両側検定: $t(14) = 6.703$, $p < .01$)と「総合スコア」(両側検定: $t(14) = 2.908$, $p < .05$)の2つの項目で有意差が確認された。つまり、特にPre-TOEFLスコアが300点台前半であるといった英語運用能力下位の学習者については、研修参加により、そのリーディング力および総合スコアで得点の上昇が期待できるということである。これは、日本での日頃の学習環境では、英語を話す・聞くという活動になかなか積極的に参加できないというレベルの学習者が、積極的に話し掛けてくれるホストファミリーに囲まれて、十分な量のインプットを受け、自らも積極的に英語を使用する機会に恵まれたのが理由ではないかと推察される。また、現地でリーディング活動に多くの時間を割いているわけではないにも関わらず、リーディング力が向上したという点については、研修中に大量のリスニングのインプットを受けたせいで、研修参加前には不足していた文章理解の処理スピードが

向上した影響ではないかと考えられる。こうした結果は、たとえ20日間という短期間とはいえ、特定のレベルの学習者には十分なインパクトがあることを示す根拠と考えてよいかもしれない。

表3は、研修参加前後でのPre-TOEFLスコア伸び率をパーセントで示したものである。マイナスがついた数値は、研修後のスコアが下がったことを示している。表2同様、「研修前スコア上位群」は研修前のPre-TOEFL総合スコア高得点者15名分のデータで、「研修前スコア下位群」は研修前のPre-TOEFL総合スコア低得点者15名分のデータである。

表3：Pre-TOEFLスコア伸び率（％）

		リスニング	文 法	リーディング	総合スコア
全 体 (N=51)	平 均 値	2.6	-3.2	2.5	0.3
	最 高 値	30.3	22.5	31.4	19.6
	最 低 値	-13.2	-24.4	-23.8	-11.7
	標準偏差	9.6	10.7	9.7	7.0
研修前スコア 上位群 (N=15)	平 均 値	1.4	-3.3	-1.3	-1.3
	最 高 値	22.5	22.5	31.4	19.6
	最 低 値	-8.9	-20.5	-23.8	-9.6
	標準偏差	7.1	11.3	12.3	7.6
研修前スコア 下位群 (N=15)	平 均 値	6.3	0.1	8.4	4.6
	最 高 値	30.3	12.1	17.2	15.0
	最 低 値	-13.2	-17.1	0.0	-5.9
	標準偏差	12.1	8.8	4.9	5.9

野中ほか（2002）では、6ヶ月の留学を経た学生4名のPre-TOEFLの平均伸び率は、いずれの項目でも10%を超えることが報告されている。その事例と直接比較はできないが、表3の内容とAppendixのraw dataを併せて確認すると、本研修に参加した学生の中にも、20%超といった高いスコア伸び率を示す例が少なからず存在することがわかる。これは、20日間という短期間の研修で、誰もが英語運用能力を高められるわけではないが、そうかと言って全く効果なしというわけでもないことを示している。たとえ20日間という短期間であったとしても、個人差や研修先でどのような活動をするか、ホストファミリーほか周囲の人々とどれだけ積極的に関わるか、によって英語運用能力の伸長が期待できるという可能性を残しているといえよう。

4. おわりに

本研究では、短大で実施している20日間の海外語学研修を対象として、その英語運用能力伸長についての効果測定を行なった。その結果、研修参加前後で、全学習者（参加者）の総合的な英語運用能力の上昇は確認できなかったが、その一方で、特にPre-TOEFLの総合スコアが350点以下といった英語運用能力レベルの学習者については、リーディング力と総合的な英語運用能力の上昇が確認できた。また、学習者の英語運用能力に関わらず、個人差が大きい部分もあり、学習者によっては、20日間の研修で20%超といったスコア伸び率を示す例も少なくないことがわかった。

短期語学研修は、異文化体験を主目的とした中学生対象のプログラムをはじめとして、様々な種類がある。そのため、今回の結果を、すべての短期語学研修プログラムに当てはめることはもちろんできないが、たとえ短期とはいえ、海外滞在経験が学習者の英語運用能力に全く役に立たないと、悲観的・批判的になる必要もないという一例にはなったかと考える。今後は、研修内容や事前指導を充実

させ、より効果的な研修プログラムを作り上げていきたい。

本研究は、英語運用能力養成における「量」についての示唆を与えることのできるデータを蓄積することが研究の出発点であった。20日間のホームステイが英語運用能力養成にどう貢献できるかのデータは収集できたが、今後もデータの蓄積を続けたうえで、あわせて「どのような内容のインプットが有効なのか」といった「質」の研究も併せて進めていく必要がある。

注

- 1) ITP = Institutional Testing Program。このテストは、英語を母語としない者の英語運用能力を測ることを目的としたTOEFL(Test of English as a Foreign Language)の問題から編集された、ミニTOEFLともいえる標準化されたテストである。テストは3つのセクションからなり、Section 1はリスニング能力、Section 2は文法構造や語法の能力、Section 3は語彙およびリーディングの能力を測る。各セクションのスコアは50点が、総合点は500点がそれぞれ上限となっている。
- 2) 下記URLで2003年度の研修詳細について参照できる：
研修概要：<http://www.n-seiryu.ac.jp/nonaka/hs2004/>
学生レポート：<http://www.n-seiryu.ac.jp/nonaka/hs04/>
- 3) ここで研修参加者としているのは、研修に参加したうえで、効果測定のための2回のITP Pre-TOEFLを受験した学生である。そのため、ITP Pre-TOEFL未受験の1名を除外してある。

参考文献

- 野中辰也、田中ゆき子、隅田朗彦. 2001. 「短期語学研修プログラムの効果測定(1)」『新潟青陵女子短期大学研究報告』第31号, pp.71-78.
- 野中辰也、田中ゆき子、隅田朗彦. 2002. 「短期語学研修プログラムの効果測定(2)」『新潟青陵女子短期大学研究報告』第32号, pp.33-38.

Appendix : 研修参加者 Pre-TOEFL スコアおよび伸び率 (研修前総合スコア順)

#	リスニング		文 法		リーディング		総合スコア		伸び率 (%)			
	研修前	研修後	研修前	研修後	研修前	研修後	研修前	研修後	リスニング	文 法	リーディング	総合スコア
1	41	45	45	46	43	42	430	443	9.8	2.2	-2.3	3.0
2	40	41	50	45	38	40	427	420	2.5	-10.0	5.3	-1.6
3	41	42	44	39	42	39	423	400	2.4	-11.4	-7.1	-5.4
4	41	42	42	39	42	32	417	377	2.4	-7.1	-23.8	-9.6
5	44	44	40	49	40	41	413	447	0.0	22.5	2.5	8.2
6	40	41	44	39	39	38	410	393	2.5	-11.4	-2.6	-4.1
7	42	42	42	40	37	41	403	410	0.0	-4.8	10.8	1.7
8	40	37	44	35	37	39	403	370	-7.5	-20.5	5.4	-8.2
9	45	43	39	43	36	34	400	400	-4.4	10.3	-5.6	0.0
10	45	41	37	34	38	35	400	367	-8.9	-8.1	-7.9	-8.3
11	40	49	41	44	35	46	387	463	22.5	7.3	31.4	19.6
12	40	40	38	33	38	33	387	353	0.0	-13.2	-13.2	-8.8
13	41	42	33	37	41	39	383	393	2.4	12.1	-4.9	2.6
14	41	40	40	37	34	36	383	377	-2.4	-7.5	5.9	-1.6
15	37	37	39	35	39	34	383	353	0.0	-10.3	-12.8	-7.8
16	40	36	40	37	35	33	383	353	-10.0	-7.5	-5.7	-7.8
17	42	38	36	35	37	36	383	363	-9.5	-2.8	-2.7	-5.2
18	36	37	43	37	36	38	383	373	2.8	-14.0	5.6	-2.6
19	38	40	44	39	33	32	383	370	5.3	-11.4	-3.0	-3.4
20	40	40	37	37	38	36	383	377	0.0	0.0	-5.3	-1.6
21	41	42	41	44	32	36	380	407	2.4	7.3	12.5	7.1
22	41	41	38	33	35	36	380	367	0.0	-13.2	2.9	-3.4
23	41	41	37	35	36	41	380	390	0.0	-5.4	13.9	2.6
24	40	37	41	31	33	33	380	337	-7.5	-24.4	0.0	-11.3
25	38	40	41	34	34	33	377	357	5.3	-17.1	-2.9	-5.3
26	40	36	36	29	37	35	377	333	-10.0	-19.4	-5.4	-11.7
27	40	40	39	38	34	30	377	360	0.0	-2.6	-11.8	-4.5
28	37	44	39	38	37	37	377	397	18.9	-2.6	0.0	5.3
29	41	45	33	38	38	38	373	403	9.8	15.2	0.0	8.0
30	37	41	40	38	35	35	373	380	10.8	-5.0	0.0	1.9
31	38	39	40	32	34	37	373	360	2.6	-20.0	8.8	-3.5
32	40	39	37	43	34	39	370	403	-2.5	16.2	14.7	8.9
33	35	41	41	38	35	35	370	380	17.1	-7.3	0.0	2.7
34	40	38	32	34	38	31	367	343	-5.0	6.3	-18.4	-6.5
35	42	37	33	34	35	38	367	363	-11.9	3.0	8.6	-1.1
36	39	38	37	32	34	36	367	353	-2.6	-13.5	5.9	-3.8
37	39	40	36	32	35	35	367	357	2.6	-11.1	0.0	-2.7
38	42	40	35	38	32	33	363	370	-4.8	8.6	3.1	1.9
39	41	44	38	36	30	34	363	380	7.3	-5.3	13.3	4.7
40	40	42	34	35	33	34	357	370	5.0	2.9	3.0	3.6
41	41	36	33	33	33	35	357	347	-12.2	0.0	6.1	-2.8
42	32	40	41	34	31	35	347	363	25.0	-17.1	12.9	4.6
43	35	40	35	37	33	35	343	373	14.3	5.7	6.1	8.7
44	39	41	35	35	29	34	343	367	5.1	0.0	17.2	7.0
45	37	38	33	37	32	36	340	370	2.7	12.1	12.5	8.8
46	35	35	32	34	34	35	337	347	0.0	6.3	2.9	3.0
47	38	38	34	30	29	32	337	333	0.0	-11.8	10.3	-1.2
48	38	33	32	29	31	33	337	317	-13.2	-9.4	6.5	-5.9
49	38	42	32	34	30	34	333	367	10.5	6.3	13.3	10.2
50	33	43	36	37	31	35	333	383	30.3	2.8	12.9	15.0
51	33	40	33	37	31	33	323	367	21.2	12.1	6.5	13.6
n	51	51	51	51	51	51	51	51	51	51	51	51
avg	39.3	40.2	38.1	36.6	35.2	35.8	375.1	375.4	2.6	-3.2	2.5	0.3
max	45	49	50	49	43	46	430	463	30.3	22.5	31.4	19.6
min	32	33	32	29	29	30	323	317	-13.2	-24.4	-23.8	-11.7
std	2.7	2.9	4.1	4.2	3.3	3.1	25.1	28.4	9.6	10.7	9.7	7.0